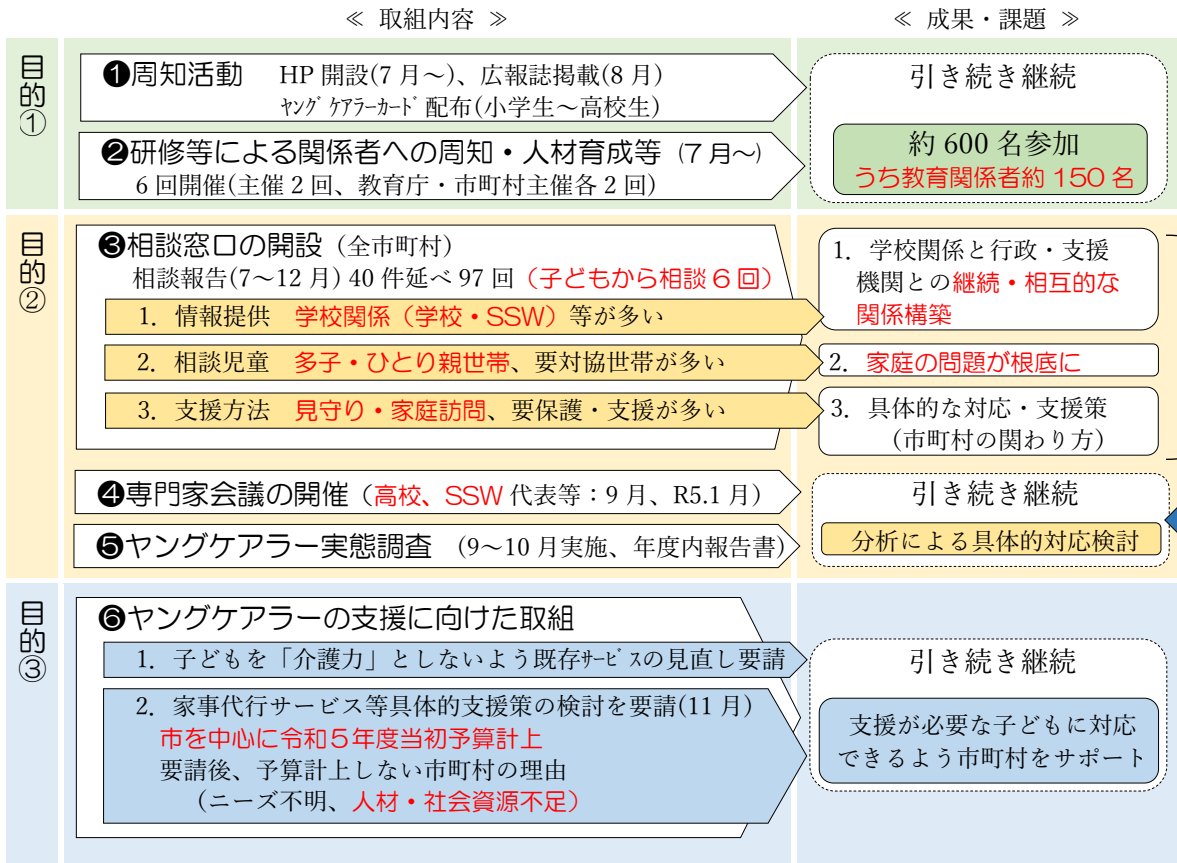


令和 5 年 2 月 2 4 日  
こども未来局児童家庭課

ヤングケアラー支援について  
(令和 4 年度の実施状況・令和 5 年度の実施方針案)

1 令和 4 年度の実施状況

- ◆ ヤングケアラー支援の当面の目的
- ① ヤングケアラーの周知啓発による本人の自覚、周囲の大人の気付きを促進
  - ② 本県におけるヤングケアラーの詳細な実態の把握
  - ③ ヤングケアラーが担っている家事や家族の世話を公的サービスで対応し、「子どもの時間」を確保



2 ヤングケアラー実態調査の結果 (速報値)

(1) 調査概要

対象：小学 5 年生から高校 3 年生 (約 1 2 万人)  
実施期間：令和 4 年 9 月～ 1 1 月  
調査方法：学校で書面調査に回答  
回収率：約 8 5 % (約 1 0 万人が回答)

- ◆ ヤングケアラー実態調査の目的
- 県・市町村支援体制整備等への活用のため、国調査の質問項目に次を追加
- ① 本人の気付きを促すため、調査にあわせてヤングケアラーカードを配布
  - ② ヤングケアラーの絞込み
  - ③ 家事代行サービスの需要把握

(2) 調査結果（速報値）から

① 問3「家族の中で世話をしている人がいる」

5.9%（国調査：5.7%）

小学生が高く（8.0%）、高校生は低い（4.2%）

② 祖父母に対する世話のウエートが高い

問2「世帯区分」

三世帯世帯 27.8%（国調査18.0%）

問4①「お世話を必要としている家族」

・全般に祖父母の比率が高い（国調査比：6.5%増）

・祖父母の世話をしている比率は、高校生が最も高い。

問4③-1「祖父母の世話の理由」

「高齢」「介護が必要」「認知症」「身体障がい」の比率は、高校生が最も高い。

③ 一部高校生の世話による負担増

・問3「家族の中で世話をしている人がいる」比率は、高校生が最も低い。

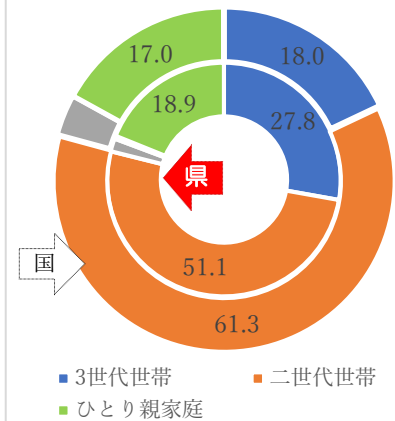
・一方、問4③-2「世話の内容」は、祖父母を含め家族全般に高校生の「話を聞く」「見守り」のほか、「家事」「入浴やトイレの世話」〈世話〉の比率が高くなっている。

④ 家事代行サービスのニーズ

問13「学校や周りの大人にしてもらいたいこと」で、「自分が行っているお世話を代わってほしい」は6.2%で、一定の家事代行サービスの需要があることが確認された。

○ 調査結果（市町村・学校ごとのデータ）は、今年度末から来年度初めに情報提供します。

問2:世帯区分:国調査との比較



### 3 令和5年度の新たな取組方針（案）

◀みえてきた課題▶

◀令和5年度の新たな取組（案）▶

子どもからの相談が  
少ない

① 子どもが気軽に相談できる SNS 相談窓口の開設  
SNS 相談窓口案内リーフレットの配布による周知

人材・社会的資源不足

② 制度の概略、相談窓口、社会資源等を網羅した  
「支援ハンドブック」の作成・教育機関・支援者へ配布

教育と行政・支援機関の  
継続・相互的な関係構築

③ 7つの生活圏毎に研修を実施  
地域の実情に応じた人材育成と支援体制構築をサポート

調査結果を分析し、  
具体的な対応を検討

④ 「支援マニュアル」の作成  
・専門家会議で調査結果を分析し対応等を取りまとめ  
・市町村・教育機関・支援者がヤングケアラーの発見から具体的な  
支援に至るまでの方法を記載

具体的な支援策  
(市町村の関わり方)

⑤ 家事代行サービス（訪問家事支援）事業の実施  
「子どもの時間」を確保するために市町村が行う訪問家事代行  
支援事業を支援

家庭の問題が根底に

◇ 家族の再構築に向けたペアレントトレーニング事業

ヤングケアラー支援を  
家族の問題のひとつとして  
位置づけ別事業で事業化

◇ こども家庭センターの整備支援（子育て支援課事業）  
一体的な相談支援を実施(令和6年度から市町村の努力義務)

⑥ 新たな取組を推進し、市町村への支援を行うヤングケアラーコーディネーターを増員